

里山グループ



里山の今

エコファームグループ

◆繁茂する笹との戦い

中井 弘

ササは「イネ科タケ亜科」に属する植物です。竹との違いは、枯れるまで稈（かん：茎）鞘が残っています。草本なのか木本なのか植物学の世界では厳密に定義されていないようです。

ササは地下茎を伸ばしてどんどん稈を増やし群生します。地上部を刈り取っても枯死せず、そこからまた新たに稈を発生させます。森林内で広範囲に優占する代表的な林床植物で、繁茂する能力が旺盛なため地面まで光が到達せず、実生や稚樹の成育を阻害しています。

皆伐跡地に植樹した苗木を成長させるためには、ササの刈払いを年2回、数年続ける必要があるとされます。その時期は芽を伸ばし切った6月～7月と養分が根に回った9月が適期とのことで衰退させるには数年を要するようです。

ならやまの「部分皆伐地区」では、部分皆伐を実施したとき一時的に裸地となり、できたギャップにはササが繁茂する結果となりました。しかし数年間植樹してきたコナラやクヌギが現在では大きく成長し、ササの背丈を抜いてしっかりと育っています。

一方枯損木を伐倒した広場「学びの森」では背丈を超えるササによって地表がびっしり覆われています。実験的にコナラを植樹しましたが、今ではササに覆われて消滅してしまっています。この2か所に顕著な相違が現れたのはなぜなのでしょう。これから時間と労力をかけてササを刈り取り、植樹を計画しています。

森林総合研究所の「森林科学」には、「これまではササの下刈りはほぼ全てにおいて樹木の「伐採後」に行われてきた。しかしこの方法では旺盛な繁茂を抑制できなかった。そこで刈払いを「伐採前」に行う実験を3年間実施した結果、3年目には地下部を含めて完全に枯死した」と報告しています。今後の参考になりそうです。

◆ファームの昨日・今日

池山 怜子

約4年数カ月前に入会以来「木曜日はならやま」が私の生活の一部になっている。今年4月新型コロナ対策として緊急事態宣言が出され、府県をまたいで移動自粛が要請され、当会でも参加自粛との連絡が入った。県境を越えて数百米の所なのにと一瞬ぼやきたくなかったが、はじめは必要なだと納得した。しかしその時のガッカリ感と共に、その直前に男性陣が種をまいて温室に入れ水やりをしていた夏野菜や葉物類が少しずつ芽を出しかけていたので、それらがどうなるのかと、とても気がかりになった。

ところが6月4日「自粛解除」になり、久しぶりのファームでは、サツマイモが畝一杯に広がり、春菊や小松菜はトウが立たんばかりに伸び、リーフレタスは立派に繁り、思わず歓声を上げてしまった。大きくなったねエーとも。この間の奈良メンバーの働きに感謝したい。以降のファームの作業は、キュウリ、ナス、トウガラシなどの支柱立てや施肥、それに生茂った雑草の除去。暑い陽射しの下で膝をつき、腰を据えての作業は重労働ではあるが、積み上がった草の山の大きさは達成感の極みである。ただ今の収穫の楽しみは、出来栄上々の黒豆の枝豆とモロヘイヤである。クレオパトラも好んだというモロヘイヤは、古代エジプトでは「王様の病気の特効薬」とされていたらしい。有害な活性酸素から体を守るβカロチンは野菜の中でもトップクラスでビタミンB、C、Eも豊富で鉄分、カルシウムもバランス良く含まれ、特徴の粘りは水溶性食物繊維であるムチンであるという。血糖値の上昇や糖尿病、動脈硬化、胃潰瘍予防に効くという。葉をさっとゆで、ゴマ和えやスープにするとおいしい。効果を期待して食卓をにぎやかにしてみてもいい。注意しなければならないのは開花後にできる種子は有害とのこと。